
片翼の翼

ちっぽけたまご

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

片翼の翼

【コード】

N33900

【作者名】

ちっぽけたまご

【あらすじ】

菊池唯と初めて話した主人公は、少しずつ惹かれて行く。

菊池唯（前書き）

前回の続きです。

菊池唯

このごろ、俺が気になっている物がある。

「告白。」だ。集中的に来るのもあるが、最近は呆れて来ている。

今日は憂鬱。響が休み。

「はぁ・・・。」

ため息をつきながらローファーをはく。

駅に向かう俺の脚がいつもより遅くなつて行く。

駅に着いた時、同じ高校の女子生徒がいた。・・・たしか・・・きくちゆい菊池唯
入学式のとき、自己紹介をしたため名前が分かった。それに、俺の
後ろの席の女。

友達という様だ。・・・あれは、かある薫か？

俺が母親に捨てられた時、施設にいた女。一緒にいつも遊んでいた
と施設の先生は言っていた。

だから女嫌いの俺でも薫は認められる。

薫が俺に気づき、手を振る。俺も手を振り返す。

駅からは、菊池唯と薫と行く事になってしまった。

学校に着いた時も憂鬱だった。

いつも俺に駆け寄つて来る響がない。

俺は、机に顔を着ける。

「はぁ・・・。・・・屋上行こ・・・。」

屋上へ向かう俺。

俺は、施設にいた時から青空が好きだった。

「母さんの写真も青空色。」

ひとりになりたかった。

でも、ドアを開けたとき、俺の絶景スポットは先取りされていた。

屋上にはフェンスにもたれかかった菊池唯……

「相原くん……?」

甘い声。こんなのに惚れる訳がない。

菊池唯はモテる。どこが良いのかも分からないが。

「あ、ごめんね……、移動するね。」

「いや。俺が教室戻るから。」

「……。」

俺がドアに手を伸ばした。

そのとき。

「もうちよつと話さない?」

くいつと菊池唯が俺の制服を掴む。

「……。」

しょうがなくとなり座った。

「お前、モテるよな。響から聞いてるんだ。なんでモテんのに断る

んだ?」

「それいったら、相原くんもね。」

キンコーンカーンコーン。

これが初めて菊池唯と離れた会話だった。

菊池唯（後書き）

読んでくれてありがとうございます。
次回も見てくださいと嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3390o/>

片翼の翼

2010年10月16日14時15分発行